

# 丹波地域大学連携フォーラム in 篠山

～学生たちとつくる地域の未来～

## 報告書

平成24年10月28日（月）10:00～12:00

篠山市立篠山市民センター

主催：丹波地域連携フォーラム実行委員会

（関西大学、関西学院大学、神戸大学、兵庫県立大学、篠山市、丹波市、兵庫県丹波県民局）

後援：文化庁、神戸新聞社、産経新聞社、朝日新聞社神戸総局、

読売新聞社豊岡支局、毎日新聞社神戸支局、丹波新聞社



## はじめに

丹波地域は、中国山地の山間地域に位置する地方都市であり、京阪神大都市圏に近接していますが、少子高齢化や人口減少が進んでおり、大学等が地域にないことなどから若い世代の流出も続いているのが現状です。

そのような中、関西大学は2006年の日本建築学会近畿支部コンペをきっかけとして丹波市青垣町佐治地区に「関西大学 TAFS 佐治スタジオ」を開設、また同年、神戸大学農学部は篠山市に「神戸大学篠山フィールドステーション」を開設し、それぞれ文部科学省の支援も受けながら地域と連携した活動を展開しています。さらに、県民局の呼びかけに応じて、2009年には関西学院大学が丹波市柏原町に「関西学院大学柏原スタジオ」を、2010年には兵庫県立大学が同市山南町に「兵庫県立大学山南スタジオ」をそれぞれ開設し、地域と連携した活動を始めました。

このように、丹波地域では現在、4つの大学が活動拠点を確保し、各地域の課題を踏まえたテーマのもとに、学生が中心となって地域を活性化しようとする取り組みが、地域と連携して展開されています。

このような背景を踏まえ、一昨年12月には丹波市柏原町において「大学・地域連携4大学合同シンポジウム」を、昨年10月には丹波市青垣町において「大学地域連携フォーラム in 青垣」を開催しました。

そのような中、大学での授業やゼミ活動の取り組みとは別に、自主的に地域と連携してさまざまな地域貢献活動を実践する学生グループも出てきています。また、そのような学生による地域貢献活動に対し、行政に加えて、民間事業者の方にも自ら支援する活動が芽生えてきています。

これらの取り組みを広く情報発信し、地域住民と学生や学生相互の交流を通じて、ネットワークの形成を図るとともに、今後の大学間の交流・連携が一層充実することを目指し、神戸大学が活動拠点を置く篠山市において「丹波地域大学連携フォーラム in 篠山」を開催しました。本フォーラムは、篠山市、日本公共政策学会、一般社団法人ノオトなどと協力し「創造農村フォーラム in 篠山」として、関連イベントと合わせて開催しました。

当日は、地元レストラン「ささらい」のオーナー藤岡氏より「フォーラム専用オリジナルスイーツ（藤稔のパパロア）」もご提供いただき、和やかな場となりました。

地域貢献活動を実施する学生グループからの活動報告では、「私たちの活動が、本当に地域の役に立っているのだろうか」という不安や、「こんなイベントを企画して地元をさらに盛り上げたい」、「大変な農作業を積極的にお手伝いに行きたい」という強い希望など、さまざまな声が聞かれました。また、学生たちの活動場所への送迎をボランティアで支援する自動車学校Mランド丹波ささ山校の井階専務は、「篠山に来てくれてありがとう」という気持ちでいると話され、学生たちの活動が少しずつ認識され、地域の方々の意識を少しずつ変えていることを実感させてくれました。

また、Facebookを用いた新しい形式のワークショップでは、参加者全員が各班に分かれ、日頃活動する上での問題の共有や地域側の受け入れ状況などについて意見交換し、他大学、他団体の学生同士、あるいは先生方同士、地元の方同士が繋がるひとつのきっかけとなりました。

そして今後も他分野の学生たちによる情報共有や助け合いによって、総合分野であるまちづくり活動がさらに広がり、ネットワークがより広く形成されていくことを願っています。

最後に、このフォーラムの開催にあたり多大なご協力をいただきました各大学や地域の関係者の方々、また、当日ご参加いただきました多くの方々に、改めて深く御礼を申し上げます。



## 目 次

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 1. 開催状況の写真                | 1  |
| 2. フォーラムの概要               | 4  |
| 3. 開会挨拶                   | 6  |
| 4. 地域食材を生かした開発品紹介         | 8  |
| 5. 趣旨・概要説明                | 9  |
| 6. 学生からの地域貢献活動実施報告        | 10 |
| (1) ユース六篠                 | 10 |
| (2) はたもり                  | 13 |
| (3) 柏原まちづくりプロジェクト         | 15 |
| (4) 丹波学生企画部               | 18 |
| 7. 民間における活動支援の報告          | 21 |
| 8. フリーディスカッション・ワークショップ    | 22 |
| 9. 参考資料                   | 29 |
| (1) 各班のワークショップの結果         | 29 |
| (2) 活動報告パワーポイント資料         | 35 |
| (3) 座談会アンケート              | 52 |
| (4) プログラム資料               | 61 |
| (5) 「創造農村フォーラム in 篠山」チラシ  | 65 |
| (6) 「創造農村フォーラム in 篠山」開催概要 | 69 |
| (7) 実行委員会                 | 70 |



# 1. 開催状況の写真

## (1) 開会挨拶



実行委員会副会長 角野 幸博 関西学院大学教授



梅谷 順子 兵庫県丹波県民局長

## (2) 地域食材を活かした開発品紹介



布施 未恵子 神戸大学篠山フィールドステーション 地域連携研究員



## (3) 趣旨・概要説明



出野上 聡 兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり参事



#### (4) 活動状況報告



長井 拓馬 ユース六篠 代表



森田 綾子 はたもり 代表



松田 卓也 柏原まちづくりプロジェクト 代表



植地 惇 丹波学生企画部 代表

#### (5) 民間における活動支援の報告



井階 正義 Mランド丹波ささ山 専務取締役



#### (6) フリーディスカッション・ワークショップ



中塚 雅也 神戸大学大学院農学研究科 准教授



(7) フリーディスカッション・ワークショップの様子



(8) 展示スペース



## 2. 丹波地域大学連携フォーラム in 篠山 開催概要

丹波地域では、4大学（関西大学、関西学院大学、神戸大学、兵庫県立大学）がそれぞれ活動拠点を設置して、地域連携の基に学生のフィールドワーク等を実施し、若者減少や高齢化の進行等で活力が低下しつつある地域の活性化等に貢献しています。

その中で、大学での授業やゼミ活動の取り組みとは別に、自主的に地域と連携して地域貢献活動を実践する学生グループも出てきており、また、そのような学生の地域貢献活動に対し、行政に加えて、民間事業者にも自ら支援する活動が芽生えてきています。

これらの取り組みを広く情報発信し、地域住民と学生や学生相互の交流を通じてネットワークの形成を図るとともに、今後の大学間の交流・連携が一層充実することを目指し、下記のとおりフォーラムを開催しました。

当日は、学生の活力や知恵、経験等を活かした地域への貢献活動を報告し、あわせて民間事業者における支援の取り組み内容を紹介しました。また、参加者全員で意見交換し、優良な活動事例やノウハウの共有を図り今後の活動に活かすとともに、地域の活性化に期待される学生の力や今後の地域連携活動について展望しました。

### 記

- 1 日 時：平成24年10月28日（日）10:00～12:00
- 2 場 所：篠山市立篠山市民センター 催事場 1,2
- 3 テー マ：「学生たちとつくる地域のみらい」
- 4 参加者数：約150名（学生、大学関係者、地域住民、事業者等）
- 5 内 容：

#### (1) プログラム

##### ○開会

開会挨拶 丹波地域大学連携フォーラム実行委員会副会長 角野 幸博  
兵庫県丹波県民局長 梅谷 順子

##### ○地域産材を活かした開発品紹介

神戸大学篠山フィールドステーション地域連携研究員 布施未恵子

○趣旨・概要説明 兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり参事 出野上 聡

○学生からの地域貢献活動実施報告 ユース六篠（神戸大学） 長井 拓馬

はたもり（神戸大学） 森田 綾子

柏原まちづくりプロジェクト（関西学院大学） 松田 卓也

丹波学生企画部（関西大学） 植地 惇

○民間における活動支援の報告 Mランド丹波ささ山 専務取締役 井階 正義

##### ○フリーディスカッション・ワークショップ

コーディネーター 神戸大学大学院農学研究科 准教授 中塚 雅也

##### ○閉会

#### (2) 展示ブースでの活動紹介（各大学の活動内容をパネル等で展示）

- 6 主 催 等：主催 丹波地域大学連携フォーラム実行委員会  
後援 文化庁、神戸新聞社、産経新聞社、朝日新聞社神戸総局、読売新聞社豊岡支局、毎日新聞社神戸支局、丹波新聞社
- 7 事 務 局：兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり建築課

## 8 結果概要

### 《活動報告1》 ユース六篠 神戸大学農学部3回生 長井 拓馬

宿場町として栄えていた篠山市福住地区において、農作業や獣害対策の補助、夏祭りなどの地区イベントに積極的に参加している。農作業や獣害対策は、指導者が必要となる作業でものすごく難しいが、“野草クッキング”や夏祭りはイベントの企画段階から関わらせていただき、夏祭りでは全体司会を務めた。また、お年寄りにとっては大変な農作業も多く残っており、今後も労働力として積極的にお手伝いに行きたいと考えている。

### 《活動報告2》 はたもり 神戸大学農学部2回生 森田 綾子

歴史的資産の数多く残る篠山市畑地区で活動する“はたもり”は、“畑を盛り上げる”という意味で名付けられた。現在、担ぎ手や乗り子の不足が最大の問題となっている畑地区最大の伝統行事“はた祭り”に積極的に参加し、顔出しパネルや手ぬぐいを作製するなど、地域住民とともに祭りを盛り上げている。地域の行事に学生が新しい企画を持ち込むことによって、伝統的なものが失われていくのではないかと不安や悩みを常に抱えているが、農家さんとのコミュニケーションを大切にし、今後もさらなる活動を考えている。

### 《活動報告3》 柏原まちづくりプロジェクト 関西学院大学総合政策学部修士1年 松田 卓也

丹波市柏原町柏原地区の中心市街地において、地域イベントへの参加やカフェの出店、外国人の小学生たちとのワークショップを行っている。多くの芸術家が展示、出店するイベント“アートクラフトフェスティバル”に運営から参加、また、柏原に住む外国人の小学生に宿題や予習復習を教えるお手伝いをしている。今後は、外国人の子どもたちやイベントで知り合った芸術家さんらとともに、イベントなどの企画を考えている。

### 《活動報告4》 丹波学生企画部 関西大学環境都市工学部建築学科4回生 植地 惇

丹波市青垣町沢野地区において、学生と地域住民とのワークショップにより、計画・整備から維持・管理まで関わることのできるポケットパークづくりに取り組んでいる。ヒアリング調査や模型作成、水はけ調査などのさまざまなワークショップを地元自治会とともにを行い、公園に今ある資源を最大限に活用した“作り続ける公園づくり”を目指す。今後は、詳細な実測調査や見積もり、図面の作成など本格的に作業を進める予定である。

### 《民間による活動支援の報告》 Mランド丹波ささ山 専務取締役 井階 正義

篠山市内で活動する神戸大学の学生たちを、JR福知山線篠山口駅からそれぞれの活動場所まで、自動車学校の送迎バスで送迎する。都市部に住む学生たちが取り組む篠山での活動に少しでも力になればと思い、“篠山に来てくれてありがとう”という気持ちを込めてボランティアとして活動を支援しており、これからも続けていきたいと考えている。

### 《フリーディスカッション・ワークショップ》

コーディネーター 神戸大学大学院農学研究科 准教授 中塚 雅也

参加者全員により、地域活性化に期待される学生の力や今後の活動の発展について意見交換した。

会場参加者からは、「きっかけは楽しい方が活動に参加しやすいが、継続ためのモチベーションは必要」、「活動を進める中では、学生と地域がお互いのニーズや目的の違いへの相互理解も必要」などの発言があった。中塚氏は、「継続的な情報共有は必要。また、地域での活動分野は広範囲であり、方向性も異なるため、他分野との交流が重要ではないだろうか」とまとめた。

### 3. 開会挨拶

#### 丹波地域大学連携フォーラム実行委員会副会長 角野 幸博

皆様、おはようございます。今日は少し足元が悪い中、また、朝早くからたくさんの皆様にお集まりいただきありがとうございます。また日頃は、学生諸君の活動をご支援いただいております行政の方々、地元の方々にこの場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

このようなフォーラムは、今年で3回目となりますが、毎年毎年回を重ねるに従い、参加人数も増えておりますし、何より中身がすごく深まっているのではないかと気がしております。

大学が地域に入っているいろいろ勉強させていただき、お手伝いさせていただきということは、研究室単位あるいは個人単位で、ずいぶん前からごくごく普通にやっております。地域の中で、研究、教育の素材を探させていただき、レベルアップしていくということは以前から行っておりますが、このような形で、複数の大学、行政の方々や地域の方々にしっかり支えていただきながら、しかもそれを継続してやっていくということは、兵庫県の中でも、あるいは全国を見ても、ここまで頑張っているところはそう多くないのではないかと思います。

学生諸君にとっては、地域の中に入り込んで、現場のニーズや特徴を学びながら、それらを自らの研究に役立てていくこと、これは当然、非常に勉強になるわけです。また、地域の方々にとってもひよっとしたら、若い学生たちの考え方や活動が、現場に入ってきてくれることによって、なんらかの刺激があるのではないかな、と思い、こういう活動が始まって参りました。

しかし、その中で回を重ねるにつれて、ここはもう少し見直したほうがいいのか、あるいはもっと深めたほうがいいのか、ということも当然出て参ります。シーズとニーズというのは必ずしも一致するということはありません。シーズとニーズがずれていたり、あるいはニーズとニーズがあってその中でどうしようか、ということもございます。しかしそれを一緒になって考えていく、そして行動していくということが、また次のステップに繋がっていくのではないかな、と思います。

今回、4大学の学生、プラスアルファの方々に集まっていただき、このようにワークショップという形で進めていくというのは新しい試みです。ここからまた、次のまちづくりのステップが始まるのではないかなと思っています。

午前中、短い時間ではありますが、特に学生諸君にとっては、他大学とのある種の他流試合になるかもしれません。当然、学んでいる専門領域によって、同じまち、同じ地域に対しても切り口も異なってくるはずですが。そのような異なる切り口を相互に見せ合いながら、また学び合っていたらいいのではないかと思います。

そういった意味でずいぶん期待しておりますし、私も参加させていただきますので、本日はどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

## 兵庫県丹波県民局長 梅谷 順子

皆様、おはようございます。只今ご紹介いただきました、丹波県民局長の梅谷でございます。

本日は、“丹波地域 大学連携フォーラム in 篠山”が、このように朝早くから、たくさんの方々にご参加いただき開催されますことを大変嬉しく思っております。学生の方々、ご指導いただいております先生方、地域の方々、企業の方々、本日はご参加いただきまして、本当にありがとうございます。

日本は、人口減少社会と言われており、この丹波地域も少しずつ人口が減ってきております。しかし、“観光”という面で見ると、昨年は、すごく観光客が冷え込んだ時期でしたが、この丹波地域は少し増えるといった状況になっています。人口は減少しているので、できるだけ定住人口も増やしたいということで、“田舎暮らしのすすめ”などもさせていただいておりますが、一足飛びには増えません。その他の方法として、たとえば観光や農産物体験をする、といったように、丹波に来ていただける交流人口も増やしたいなと思っております。

さて、丹波地域の特色のある取り組みとして、“大学連携”があります。関西大学、関西学院大学、神戸大学、それから兵庫県立大学、それぞれがこの丹波地域に拠点を持って活動していただいております。丹波地域には残念ながら大学はありませんが、こうして大学生に来ていただけるということで、地域の方々にとっても、元気がもらえると大変喜ばれているところでございます。

先ほどもお話がありましたが、それぞれの取り組みを情報交換しようということで、シンポジウムやフォーラムを、関西学院大学、関西大学、本日は神戸大学、それぞれの大学の方が中心となって進めてきていただきました。今年は、篠山市、日本公共政策学会、それから一般社団法人ノオトのご協力を得まして、3日間のフォーラム“創造農村フォーラム in 篠山”の中の一つのセッションという形で開催させていただきましたので、4大学の学生の他に、今回は関東の方の学生もたくさん来ていただいているのではないかと思います。是非、大いに情報交換し、人の輪を広げていただきたいなと思っております。

この丹波地域、実りの季節を迎えております。新米、葡萄、栗、それから、黒豆の枝豆がちょうど今週がぎりぎりというところですが、大変楽しんで味わっていただけるのではないかと思います。

また本日は、地域の有名な洋菓子屋さん和神戸大学がコラボで開発されました、今回目玉のスイーツが後ほど提供されると聞いておりますので、そちらもお楽しみください。

11月になりましたら紅葉の季節になります。できるだけ、この丹波を“第二のふるさと”として、度々訪れていただきたいと思っております。

最後になりましたが、本日のフォーラムが実り多いものとなりますように、また、実行委員会としてご尽力いただきました皆様方に感謝を申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

## 4. 地域食材を生かした開発品紹介

神戸大学篠山フィールドステーション地域連携研究員 布施 未恵子

おはようございます。神戸大学篠山フィールドステーションの布施と申します。普通こういったフォーラムというのは、固く終わってしまうのですが、少しでも甘いものを食べながら和やかに場が進みますようにと思ひまして、お手元にご覧いただけます資料に載っています、篠山市にある“ささらい”というレストランのオーナーに、この連携フォーラム専用のオリジナルスイーツを作ってくださいました。去年は、“丹波茶”を使用したものでしたが、今年は先程もお話にありましたが、秋の味覚である葡萄をふんだんに使いました“藤稔のパバロア”をご用意させていただきました。



藤稔のパバロア

神戸大学では、梨や葡萄などいろいろな果実を育てておりますが、ささらいのオーナーの方と一緒に、どの果実だったら良いものが作れるかということを選んだ結果、今回この藤稔を使用させていただいております。



藤稔

ささらいのオーナー藤岡さんにお伺いしたところ、“藤稔の一番美味しいところは、皮のまわりの果肉のところ。きれいな赤色（ワイン色）を出すには、その皮の部分をすり潰したものを入れるのが良い”ということで、“一層目（上の部分）は藤稔のジュースを使いましてゼリー、二層目（下の部分）は、北海道の生クリームを使用しましたパバロア、この2層で作りました”ということです。旬そのものをもってくるということで、いろいろと苦心され、何回も試作品を作った結果、今回できたものとなっています。今からワークショップの前までに発表が続きますが、その間に少しずつ食べながら、ワークショップの議論の方に進んでいただければと思います。

去年は、丹波茶のケーキの上に、クリームと“チュイール”というクッキーのようなものをのせました。そのときは、神戸大学農学部で作っています“山米”というものを入れました。今回は女性も多そうということで、パバロアをご用意させていただいております。

“ささらい”にお越しになられたことはございますでしょうか。今回のように、“大学連携フォーラムに因んでスイーツを作ってください”といつも無理を言って答えてくださるのがささらいの藤岡さんでして、“ささらいの方もこれか

ふじみのりのおいしさは皮に集中しています。その持ち味を最大限に生かしたスイーツをつくりました。皮ごとジュースをまぜたクリーミーなパバロアの上にふじみのりを丸ごととじこめたゼリーをのせています。2つの味をお楽しみください。

藤岡敏夫（ささらいオーナー）



らの宣伝になれば”とご協力していただきました。“また今後こういったことがあればなんでもやりますよ”と仰っております。今日藤岡さんはお店の都合でいらっしゃいませんが、代わりにご挨拶させていただきました。

私もこの藤稔と一緒に収穫させていただいて食べたのですが、糖度が18度以上と、他の藤稔と食べ比べても特にこの農場の藤稔がよくできているとすごく驚かれていました。藤岡さんは、この旨みをどうやってこのスイーツに作るかと非常に悩まれ、この1ヶ月ほど過ごしてこられました。神戸大学の農場では、そういった果実以外にも但馬牛や何百種類もの稲を育てており、調査研究を行っています。神戸大学篠山フィールドステーションでは、そういったものを地域に活かすような形で、今回のように地域と大学を繋ぐお仕事をさせていただいております。ここにいる神戸大学の学生の中にも、農場の方で実習を受けている学生も多くいますが、こんな風にスイーツになっていくんだなとイメージを持ちながら農場を楽しんでもらえたらなと思います。以上です。ありがとうございました。是非ご賞味くださいませ。

## 5. 趣旨・概要説明

### 兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり参事 出野上 聡

おはようございます。兵庫県丹波県民局の出野上と申します。私の方からは、導入部分ということで少しお話させていただきます。

まず、高齢化、人口減少が進む丹波地域には大学がありません。ですので、若い世代や高校を卒業して大学生になる若者というのは、大半が丹波地域から他地域に出ていきます。そして他地域に出たまま帰ってこない。そうすると、主体となって地域を支える若い人材は恒常的に不足し、または増えないひとつの要因になっているのではないかと考えています。

そのような中、大学生が大学の授業やゼミ活動、自分の研究など、それぞれの立場でこの丹波を訪れるようになってきました。特に、4大学がスタジオを活動拠点として開設し、地域と連携した活動を展開しています。今日は関東や他地域からも学生がいらっやっていますので、少しご紹介させていただきます。

神戸大学はここ篠山で、平成18年から篠山フィールドステーションを開設、関西大学は丹波市青垣町佐治で平成19年から佐治スタジオを、平成21年からは関西学院大学が丹波市柏原町で柏原スタジオを、平成22年からは丹波市山南町で兵庫県立大学が山南スタジオを開設し、国や県、市の支援を活用しながら、大学や先生方、それから地域の方々が一緒になって、活動していただいています。

さらに、大学の授業やゼミ活動を通じて、学生さんたちと地域のみなさんとの間に、新たな、そして継続的な関係が築かれるようになってきました。学生さんたちの中には、地域のみなさんと一緒に自主的に活動に取り組むという事が出てきました。こういった取り組みに対しては、篠山市さん、丹波市さん、それから兵庫県も一緒になって、わずかではありますが支援させていただいておりますし、事業者の方から支援の申し出をいただくことも出てきております。本日のフォーラムの前半部分は、このような方々のお話を聞くことを企画しております。

また、丹波地域で活動する大学と、地域のみなさんとの交流・連携の可能性を探る兵庫県立大学山南スタジオは丹波市柏原町柏原で、4大学合同シンポジウムを、去年は丹波市青垣町でフォーラムを開催しました。今日は、“学生たちとつくる地域の未来”というテーマを掲げ、ここ篠山でフォーラムを開催します。

目的、位置付けは3点あります。まず1つ目は、学生の力や知恵などを活かした自主的な地域への貢献活動、それから、そういった学生の活動に対する支援の内容を情報発信しようということです。2つ目は、そういった活動事例やノウハウをみんなで共有して、今後の自分たちの活動に活かしていこうではないか。それから、相互に交流することによって、今後の連携の可能性について意見を出し合ってみようということです。そして最後に、

今後を展望し、地域活性化のさらなる寄与ですとか、みなさんの繋がりが連携からネットワークに広がっていく機会になればと思っておりますので、どうかよろしくお願ひします。それでは、本日のフォーラムがより良いものになりますように、みなさんにご協力をお願いいたしまして、私からのご説明とさせていただきます。ありがとうございました。



神戸大学篠山フィールドステーション



関西大学佐治スタジオ



関西学院大学柏原スタジオ



兵庫県立大学山南スタジオ

#### フォーラムの目的・位置付け

- |          |  |
|----------|--|
| ◇情報発信    | ・学生の力や知恵を活かした自主的な地域への貢献活動と活動への支援           |
| ◇情報共有・交流 | ・優良な活動事例やノウハウの共有→今後の活動に活かす                 |
| ◇今後を展望   | ・相互交流→今後の連携の可能性<br>・地域活性化への寄与、連携からネットワーク形成 |